

人はなぜ
薔薇を
愛するのか

Your love for roses, why?

熊井明子

Akiko Kumai



ベネッセ

人はなぜ薔薇を愛するのか

黒井明子

Akiko Kuroi



ラテン語の「bene=よく」と「esse=生きる」
からつくったのがBenesse(ベネッセ)です。
私たちは、ひとりひとりの充実した生活
や向上意欲のサポートをしています。

熊井明子

くくまい あきこ

長野県松本市生まれ。信州大学教育学部（松本）修了。映画監督熊井啓と結婚。エッセイストとして活躍中。長年ポプリの研究を続け、ハーブにも造詣が深い。著書は、『愛のポプリ』（講談社）、『猫の文学散歩』（朝日新聞社）、『風のポプリ』（毎日新聞社）、『「赤毛のアン」の人生ノート』（大和出版）、『うれしい私に会える本』（大和書房）、『シェイクスピアの香り』『シェイクスピアの町』（東京書籍）、『シェイクスピアのハーブ』（誠文堂新光社）ほか多数。

人はなぜ薔薇を愛するのか

1997年2月5日 第1刷印刷

1997年2月10日 第1刷発行

著者 熊井明子

発行者 谷口正彦

発行所 株式会社 ベネッセコーポレーション

〒206-88 東京都多摩市落合1-34

電話 ご注文・問い合わせ(0480)23-9233

編集(0423)56-0940

印刷所 共同印刷

製本所 大口製本

©Akiko Kumai 1997 Printed in Japan

ISBN4-8288-1795-6 C0095 NDC914 188 216P

乱丁・落丁本はお取替えいたします

定価はカバーに表示してあります

薔薇園への誘い^{いざな}

薔薇を愛する人は皆、^{ローズ・ガーデン}私の薔薇園を心の中に持っています。

清楚な野茨の花から、ゴージャスなモダン・ローズまで、ありとあらゆる花を咲かせている人。

白薔薇だけのホワイト・ローズ・ガーデンにこだわる人。
香り高いオールド・ローズを集めている人。

幼い頃からの思い出がからむ薔薇園を大切にしている人。
恋の記念の薔薇のシークレット・ガーデンの主もいます。

それぞれに違った理由で人は薔薇を愛し、心の薔薇園で夢をみます。

薔薇はこの世にある最も美しく、かぐわしい愛の形かもしれない。

この本は、私の薔薇園の花で作った百花香ポプリのようなもの。薔薇から始まる様々なお話を、ポプリの香りを聞くように楽しんでいただければ幸いです。

目次

第一章 愛の使者

愛の使者……………12

薔薇のことわざ……………16

『赤毛のアン』と薔薇……………20

薔薇を守るもの……………24

美しき過剰……………28

薔薇の本……………32

『千一夜物語』の薔薇……………36

薔薇の“おまじない”……………44

第二章 心に残る一輪の薔薇

第三章

ローズ・ボール

心に残る一輪の薔薇 ————— 50

秘密と愛と信仰と ————— 55

『ミセス・ミニヴァ』と薔薇の名前 ————— 59

薔薇の友 ————— 63

マハーラータの薔薇 ————— 68

スコットランドの赤い薔薇 ————— 72

十月の旅の薔薇 ————— 77

英国の庭にて ————— 81

ローズ・ボール ————— 86

ニューヨークのポプリ ————— 91

薔薇の緑 ————— 95

第四章

薔薇窓

ロザリオ ————— 99

薔薇を蒸留するように…… ————— 103

オペラ「薔薇の騎士」 ————— 107

欧米の薔薇香水 ————— 111

薔薇の味 ————— 115

ゴールデン・ローズ ————— 120

薔薇窓 ————— 126

薔薇の姿をとどめたくて ————— 137

薔薇の実の絵 ————— 141

ルドウテの薔薇 ————— 145

アンティークのペーパーワーク ————— 150

第五章

薔薇は生きてる

白薔薇を……

160

春夜の白妙の薔薇

166

薔薇幾度花

171

薔薇は赤い

176

薔薇の円環詩

181

へっせの薔薇

186

燃える薔薇

191

「野ばら」の歌

198

薔薇は生きてる

206

人はなぜ薔薇を愛するのか

装丁／スタジオ・ギブ（吉本桂子）

カバー画／『華變——十二の象徴歌への頌歌』（塚本邦
雄／書肆季節社）に添付の『FLEURS ET
BOUQUETS』（JOHN EDWARDS/LI-
BRAIRIE DENIS）より

章扉画／『BOUQUETS DE STYLE』（MARCELLE
LEGRAND/LIBRAIRIE DES ARTS DÉCOR-
ATIFS）より（協力：株式会社ローズメイ）

第二章
愛の使者



愛の使者

女性が何人か集まったとき、嬉しい贈り物は何か、という話になった。宝石、ロードシヨアの切符、趣味のいいリトグラフ、最高のブランドー等々があげられたところで、一人が、

「薔薇の花！」

と言った。すると皆、一斉にうなずき、それぞれに何かを思い出す眼差しになった。私も、長年バースデイに薔薇を家に届けて下さる心やさしい友人のことを思った。本当に、薔薇ほどドラマティックで、贈り物にふさわしい花はない。一輪でも雄弁に贈り主の気持ちを伝えるし、多ければ多いほどゴージャスで感動的だ。

十数年前、パリへ行ったとき、夕暮のカフェテラスで、金髪的美青年が花売り娘から買

ったピンクの薔薇を、連れの美女に芝居気たつぷりに贈るところを見た。優雅で粹な恋の街の一シーンを今も時々思い出す。

恋がらみでなくても、旅行中に会った薔薇、贈られた薔薇は忘れがたい。南フランスにエコロジスト・葉草治療家のM・メッセゲさんを訪ねた折りにいただいた特別にかぐわしいピンクの薔薇の花束。イギリス各地で折りにふれて贈られるオールド・ローズ。

ホテルに滞在すると、よく支配人から花とメッセージが届けられるが、それも薔薇であれば嬉しさも一入^{ひとしよ}である。

映画評論家の淀川長治氏はニューヨークでグロリア・スワンソンを訪問されたとき、とびきり上等の薔薇をお土産に持って行かれたという。最高級の花屋で買い求めた一番上等の薔薇。茎を一本ずつレースで巻いた花束……。

グロリアの部屋には、大きな鉢に美しいグラジオラスが生けてあったけれど、彼女はそれを捨てさせて薔薇を生けた。そして心から「ありがとう」と言った由。

薔薇でなくても、彼女はそうしたかもしれない。でも薔薇だったからこそ、喜びは大きかったのではないかしら。何回贈られても嬉しい花、その都度、新鮮な感激をもたらす魔術の花、それが薔薇だ。

花の中には、蘭のように一定期間不変の美を誇るものもあれば、ジンジャーのように次々とつぼみが開く花もあるが、薔薇はそれ自体の変化が愉しい。ほころびていく花弁、変わる花型、そして何よりも芳香。つまり、薔薇を贈ることは、目の喜びだけでなく、微妙に変化していく「香る時」を贈ることなのだ。

いつか親友のバースデイに、ピンクのミニチュア・ローズの花束を贈ったことがある。しばらくして彼女は、小さなノートに咲ききった花をスケッチして、「とてもきれいで、よい匂いです」と書き添え、送って下さった。満開の薔薇は、笑いくずれている少女達のようにだった。私もかぐわしいひとときを共有したような気分になった。ノートには、他にもいろいろと素敵な言葉が書いてあったが、薔薇のページは特に忘れがたい。

まれに薔薇のプレゼントを嫌がる人がある。未処理のトゲが指にささって大変な目にあつて以来嫌いになったという人。昔、肺の病気をしたとき山のような薔薇を貰い、香りて息苦しくなった経験を持つ人。これは逆に、療養中、毎日恋人が持参した薔薇に支えられて健康を取りもどした人の例もあるから、人それぞれだが。

また、贈り方次第で薔薇が心を刺す刃になることもある。こんな話のある女性からお聞きした。